

話題の講義ライブ  
LIVE 2012

Today's Program 国際安全保障論

# DOSHISHA UNIVERSITY 同志社大学



法学部 政治学科

5.15.Tue. at Kyotanabe

9:00~10:30

村田 晃嗣 教授



「では、講義を始めます、いいですか?」先生が告げた途端、学生たちは素早くノートを広げ、ペンを持つ。どうやら講義

始業のチャイムが鳴り終わってまもなく、約200名の学生が待ち受ける教室内に颯爽と現れた一人の紳士。今日の講義「国際安全保障論」を担当する村田晃嗣先生だ。現在、同志社大学法学部長を務める先生は、テレビの討論番組などでも広く知られた存在。スタイリッシュなスーツ姿や、歯切れのよい話し方が印象的で、とても存在感のある先生だ。

「では、講義を始めます、いいですか?」先生が告げた途端、学生たちは素早くノートを広げ、ペンを持つ。どうやら講義

の度に訴え続ける「メモの大切さ」が浸透しはじめている模様。それでも先生は念を押す。「メモをしつかりと取ること。板書を写すだけなら小学生でもできます。私は比較的早口ですが、誰にでもわかる話し方をしていますし、大事なポイントには繰り返し話します。自分なりに創意工夫を凝らし、要点がわかるようにメモしてください。論理的な話をメモする力、要点を理解する力は、社会に出てから一生必要になる能力です。その力を身につけるトレーニングだと思ってください」

## 教科書に書いてある歴史は本当なのか? 正しい情報を掴み、正しく考えるトレーニングを積む!

講義の流れ  
講義形式で国際紛争を歴史的・理論的に学び、21世紀の日本を取り巻く安全保障上の問題を考える。  
国際紛争を引き起こした複雑な因果関係を掴み、物事を分析的に考える力を習得。国政や時論への興味も高まる。

創意工夫の講義メモで  
一生モノのスキルを磨け!

第一次世界大戦は回避できたか?  
反実仮想を用いて歴史認識を改める

さて、この講義では、そもそも「国際社会の安全を脅かす紛争はなぜ起きるのか」という疑問から出発する。過去に起こった国際紛争の歴史的事実やその背景を正しく理解すると共に、安全保障のあり方について考えを深めるのが基本的な狙いだ。

今日の講義は、前回に引き続き、第一次世界大戦をテーマにしている。テキスト(ジョセフ・ナイ『国際紛争』)を使って開戦のプロセスをおさらいする。冒頭、高校の世界史で学んだはずの常識が一部覆された。

第一次世界大戦といえば、オーストリア皇太子ガリィ帝国の大公夫妻が訪問先のサラエボでセルビア人青年に暗殺されたサラエボ事件が発端であると一般的に理解されている。

しかし、村田先生は「それはあまりにも浅薄な歴史認識」と語る。その理由を「サラエボ事件が起きた1914年6月28日から開戦を迎えた同年8月4日の間には、ヨーロッパ各国の関係性からさまざまな動きがあ

り、さらに、約4年間という長期にわたって、一千万人の死者を出す大戦争を回避するための安全保障の方策もいくつか考えられます」と続けた。

例えば、オーストリア皇太子ガリィ帝国はサラエボ事件を受けて、セルビアに対する報復を画策するなか、ドイツの皇帝に支援を要請する。皇帝はそれを独断で引き受けるといふ展開が見られるが、もしもこの時、皇帝が支援を断っていたと仮定するならば、オーストリア側は大国ロシアが背後に控えるセルビア側を警戒して強気な姿勢には出られなかったと考えられる。第一次世界大戦ははるかに小規模なオーストリア対セルビアの二国間戦争に終わった可能性さえ見えてくる。

このように、ある局面における「もしも」の展開を考察する反実仮想(カウンターファクチュアル)を重ねることによって、「第一次世界大戦には、別のパターンも十分にあり得た」という考えが導き出された。

### 戦争の原因を3つの観点で整理 悲惨な過去にも真摯に向き合う

講義ではさらに、最悪の事態を避けるチャンスがあつたにもかかわらず、なぜできなかったのか、その原因についても詳しく分析する。先生が挙げたのは、1. 国際システム(ヨーロッパ各国の勢力バランスの不安定化)、2. 国内ユニット(ナショナリズムの高揚)、3. 個人の役割(指導者のレベル低下)という3つの観点。これらが複雑に絡み合い、第一次世界大戦という悲惨な戦争へと発展した理論が示された。

そのなかでは、戦争の長期化・大規模化におよんだ要因の一つとして、機関銃や毒ガスといった大量殺傷兵器が使われた戦場の悲惨さも語られた。先生は物事を冷静に分析する方法論とともに、国際平和を実現するうえで大切な、不幸な歴史に向き合う想像力も高めてくれる。



## VOICES 学生の声 of University Students



吹留 美佳さん(左)  
商学部 商学科2年  
村田先生の講義はおもしろいという評判を友達から聞いて受講しました。先生は、学生が話に集中しやすいように、さまざまな工夫をされています。具体的な数字も用いてくれるのでわかりやすく、サークルで取り組んでいる国際政治の研究にも役立っています。

福井 啓朗さん(右)  
法学部 政治学科2年  
昨年度受けた「日本外交論」もそうでしたが、村田先生の講義は単に用語を羅列するのではなく、いろいろな原因を見たりして、物事の奥深い部分を学ぶところが魅力。お話のテンポがよく、躍動感もあります。先生はよく教室内を歩かれますが、その時はちょっと緊張しますね(笑)。

## 同志社大学

資料の請求および  
お問い合わせ先

同志社大学 入学センター入学課(今出川キャンパス)  
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
TEL:075-251-3210 FAX:075-251-3082  
URL <http://www.doshisha.ac.jp> e-mail [ji-nyugk@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-nyugk@mail.doshisha.ac.jp)

- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部(2013年4月開設予定)

### 【沿革・歴史】

新島襄が1875年に同志社英学校を創立して以来、同志社大学は伝統を携えながら時代の移り変わりとともに、新学部・学科の開設や学部の改組再編など、総合大学として充実度を高める積極的な改革を行ってきました。

2008年4月には生命医科学部、スポーツ健康科学部の開設とともに、工学部を理工学部に改組再編し、2009年4月には心理学部を開設。これに続き、2011年4月にはグローバル・コミュニケーション学部を新設しました。

さらに、2013年4月にはグローバル地域文化学部を開設する予定で、「グローバルな観点から国際社会で活躍できる人材」の育成をめざす授業科目を展開します。

また、同じく2013年4月からキャンパス再編により学修校地を移転統合いたします。これにより今出川校地は神、文、社会、法、経済、商、政策、グローバル地域文化(2013年4月開設予定)学部の全学年と各大学院、専門職学院の学生が学び、ゼミナールを中心とした専門教育を展開する文系教育の教育拠点となります。一方、京田辺校地は文化情報、理工、生命医科、スポーツ健康科、心理、グローバル・コミュニケーション学部と各大学院の学生が学び、「実験・実習、フィールドワーク」を重視する複合的教育拠点となります。

さらに、キャンパス再編に伴う整備事業の一環として、今出川キャンパスの北隣に烏丸キャンパスを開設(2012年11月)する予定です。

同志社大学はハードとソフトの両面からキャンパス整備事業を推進し、新しい学びのかたちを築き上げる取り組みを今後も展開していきます。

### 【オープンキャンパス情報】

京田辺キャンパス  
7月29日(日) 9:30~16:00  
今出川キャンパス  
8月5日(日) 9:30~16:00

《内容》教員による学部・学科紹介、模擬講義、英語対策講座、入試説明会、AO入試説明会、キャンパスツアー(京田辺キャンパスのみ)、学部独自企画イベント、個別相談など

※詳細は大学ホームページをご覧ください。申込不要、入退場自由。



村田 晃嗣先生

同志社大学法学部長。神戸大学大学院法学研究科博士課程(国際関係論)修了。専門は政治学、アメリカ政治、外交史、国際安全保障政策。近年の主な研究テーマは、第二次世界大戦後のアメリカの東アジア政策とその決定過程、日米安全保障関係の歴史と課題など。単なる歴史研究にとどまらず、安全保障問題の現状分析や政策提言も視野に、国際会議への出席や雑誌、新聞への寄稿なども行う。著書に「現代アメリカ外交の変容—レーガン、ブッシュからオバマへ」(2009年、有斐閣)、「レーガン—いかにして「アメリカの偶像」になったか」(中公新書)